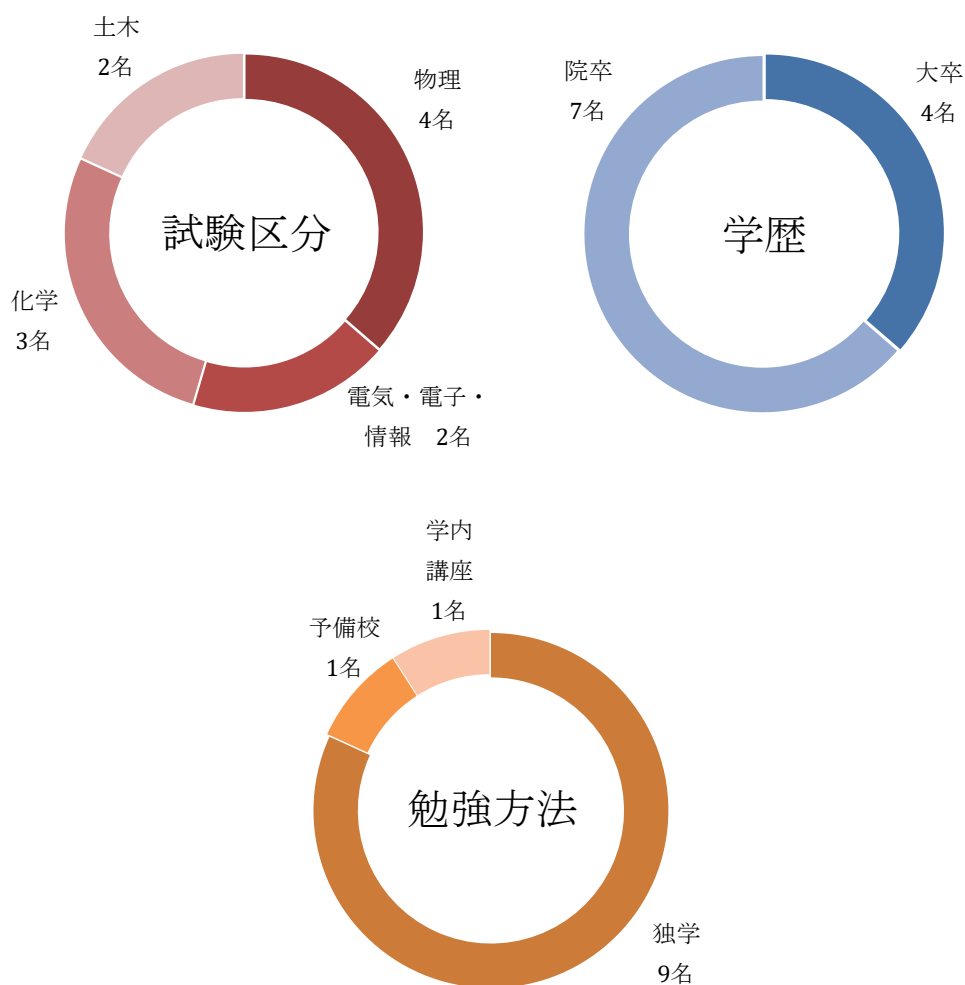


第二部 国家公務員採用一般職試験 体験記

この第二部では、内定者 4 名による国家公務員一般職試験の勉強・対策方法をお伝えします。

過去 5 年分 一般職理工系内定者の試験区分・勉強方法の内訳



本冊子に記載している試験方法や内容は、H30 年度国家公務員採用試験について述べたものであり次年度以降の試験とは異なる可能性があります。また、勉強方法や選択問題のオススメ等については、あくまでも内定者個人の見解に過ぎず、もし事実と異なった場合でも責任はとりにかねますことをご了承下さい。あくまでも、本冊子は参考としてご覧いただければ幸いです。

－ 国家公務員一般職試験の内容の簡単な説明 －

【一次試験（教養+専門）】

全てマーク式の筆記試験です。教養試験では全問が必須問題、専門試験は必須問題と選択問題とに分かれています。この試験と同日に記述式専門試験というものも行うので、長丁場の体力勝負はここから始まっているように思います。一次試験に合格後、人事院面接へと進みます。大体の問題集にも記載されていますが、一般職の場合、専門試験は大学、大学院の試験や入試が選択式になっているようなイメージです。

【政策論文】

選択した専門分野と社会的な問題等を織り交ぜて自分の意見を論ずる論述問題です。時間は一時間です。集中力の維持と短時間での記述能力が大事になると思います。

【人事院面接】

当日までに面接カードを記入して、基本的にその内容に沿って質問される個人面接です。面接時間はおよそ 20 分程度で、面接官は 3 人です。基本的にこのカードに沿って質問されますので書いた内容をよく頭に入れておくとよいと思います。

PN：かつお（化学区分/大卒程度）

1. 勉強量について

【勉強開始時期、勉強法、勉強量等】

勉強は学部3年の9月から本格的に始めました。総合職を併願していたので主にそちらの方を意識した勉強を行っていました。勉強方法としては、学内の公務員試験対策講座で配布された参考書や過去問を用いました。

【専門と教養、論文のバランス】

専門：教養＝6:4の割合でした。専門は配点比率が教養よりも高いので、重点的に勉強しました。論文は試験の数週間前に数年分の過去問を見て、傾向や対策を考えていました。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

知能分野は、毎日問題を解き続けていました。その中でも判断推理・資料解釈・現代文は特に落としたくない問題であったので、勉強量を多くしていました。

知識分野は、主に時事問題と思想を中心に行いました。時事問題は市販の参考書、思想は公務員講座のテキストを主に使用していました。思想は公務員試験においてほぼ毎回出題されているので、暗記すれば得点しやすいと考えて勉強していました。

【専門試験（化学）】

一般職の過去問を解いて、分からない部分は大学の教科書やノートを見直すという勉強を行っていました。

化学区分では工学の基礎という科目が必須問題にあり、市販参考書で集中的に勉強しました。

【論文】

過去問を見て傾向を確認し、自分だったらどのような意見を持つかを考えました。そしてその意見を分かりやすく伝えるには、どのような書き方をすればいいかを考えていました。

【人事院面接】

人事院面接では面接カードにそって質問されるので、面接カードの作成に力を入れました。作成した面接カードを添削して頂き、模擬面接をお願いして改善すべき点等の助言を頂きました。

面接本番では緊張して早口になってしまい、面接官が聞き取りにくくなってしまいかも知れません。そのため、普段よりゆっくりと話すことを意識して臨んでいました。

PN : ジョセフ (化学区分/大卒程度)

1. 勉強量について

【勉強開始時期、勉強法、勉強量等】

勉強は前職を退職した前年の 10 月頃から徐々に始めました。一般職に向けた勉強というよりも、一般職試験対策も兼ねた総合職試験に向けた勉強という意識でした。勉強方法として、10 年分の過去問題や予備校の問題集を 3 周しました。

【専門と教養、論文のバランス】

割合としては、専門：教養：論文＝6：4：0 です。論文対策は、過去問を見て形式を確認しただけです。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

数的処理・判断推理・文章理解の問題は総合職・一般職の過去問を中心に 1 日 1 問ペースで解いていました。知識分野は時間があるときにまとめて覚えるようにしていました。間違えた問題は何度も解き直しをしていました。直前期は時間を計って過去問を解くようにし、時間感覚を体にしみこませました。

【専門試験 (化学)】

ひたすら総合職・一般職の過去問 (10 年分) を解き続けました。解き方が分からない問題は、インターネットや大学の授業で用いた教科書で調べ、後で必ず見直せるようにしました。また、予備校の参考書で知識を深めました。

【論文】

特別な対策はしませんでした。過去問を見て問題形式を確認しただけです。試験本番では、自分の意見をいかに論理的にわかりやすく記述するかを意識しました。

【人事院面接】

面接カードの作成に力を入れました。作成した面接カードは身近な人物に見てもらい、アドバイスを頂きました。記述した内容に対して予想される質問への回答はある程度準備しておくとういと思っています。また、予備校の先生に面接の練習をしていただき、話し方、身振り手振りなどの癖を修正していただきました。

面接本番では緊張すると思います。質問されたことに対してゆっくりでもいいので焦らず的確に回答することを意識するといいかもしれません。ちなみに面接で私が聞かれた内容は、①国家一般職公務員としてなぜ働きたいと思ったか。何をしたいか。②学生時代最も力を入れたことは何ですか。の 2 つでした。

PN：ぶー（土木区分/大卒程度）

1. 勉強量について

【勉強開始時期、勉強法、勉強量等】

自分は修士 1 年の 2 月頃から勉強を開始しました。勉強法は独学で「土木職公務員試験」のシリーズを中心に行いました。4 月以降は参考書の復習と過去問を主にやりました。勉強量は平日多くて 6 時間ほど、週末はバイトや息抜きを行っていました。

【専門と教養、論文のバランス】

勉強に取り掛かるのが遅かったため、専門と教養は同時並行で始めました。勉強量の比率としては専門：教養：論文=6：4：0 くらいでした。論文に関しては過去問を見る以外特別な対策は取りませんでした。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

勉強はほとんど判断推理と数的推理に絞って行いました。参考書で解法の記憶と反復練習を行い、過去問で制限時間内に解く練習をしました。

【専門試験（土木）】

参考書の反復を繰り返すとともに、専門の中でも数学と自分の得意な単元を重点的に勉強しました。初めから回答できた簡単な問題以外は 3 日続けて解いて覚えられるようにしました。直前では過去問を制限時間内で解き、間違えた部分は参考書を用いて理解するように努めました。

【論文】

特に勉強せず、直前に過去問をみました。

【人事院面接】

説明会の情報を振り返ったり、インターネットで調べたことを参考にしたりしながら面接カードを作成し面接に臨みました。面接ではカードに書かれたことを掘り下げて聞かれるので質問内容を想定するようにしていました。また回答する際カードの内容はしっかり理解したうえで、回答がカードの丸暗記にならないよう注意しました。

PN : K (物理区分/大卒程度)

1. 勉強量について

【勉強開始時期、勉強法、勉強量等】

5 月から独学で勉強を開始しました。勉強法としてはオーソドックスですが過去問に目を通しました。勉強量としては時間の空いた時や、移動時間を使いました。

【専門と教養、論文のバランス】

2 : 1 : 7 の割合でした。

専門試験は学部時代に学んだことの繰り返しでしたので、簡単に復習した位です。教養試験は普段取り組むような問題では無いので、全体に目を通しました。論文はしっかり時間を掛けて取り組みました。

2. 勉強・試験内容

【教養試験】

文章解釈については、普段では読むことの無い難解な文章でしたので、接続詞の使い方を意識して本を読むようにしました。英語についても元々苦手なので、高校レベルから復習をしていました。数的処理は推理小説のように演繹的に考える練習をしました。その他知識タイプの問題は、自分の無知さを思い知らされ新聞を手に取りました。

【専門試験（物理）】

学部 1 ～ 3 年時に学んだ基礎的な問題が主でした。地球物理に関しては見たことも聞いた事もない問は諦めました。

【論文】

文章を書くのは大の苦手でしたので一番時間を割きました。主に過去問のお題を使い練習しました。答え合わせが出来る類のものではないので、研究室の教授に添削して頂きました。

【人事院面接】

特に対策はしませんでした。面接時間も短く面接カードに沿った質問が主でした。唯一辛いのは、待ち時間が長いことです。周りの受験者と話す雰囲気ではなかったので、空き時間に読む本、空腹を満たす軽食などが必要になると思います。